

意見概要及び事務局対応案

都市像Ⅲ 日本海拠点の活力を世界とつなぐ、創造交流都市  
政策⑧「役割を果たし成長する拠点」

【対応案】①素案を修正する。  
②素案のとおりとする。(実施計画・分野別計画などでの対応を含む)  
③その他(検討等)

資料1

項目	番号	意見概要	素案 P	事務局対応案		
				対応案	理由	
全体	1	8年後に検証できるように、目標数字を挙げるべきではないか。		②	総合計画は8年後の姿・方向性を示すものであることから目標数字を設定せず、8年後の姿を実現するための具体的な取組みを掲載する実施計画・分野別計画の中で検討します。	
8年後の姿	1	この施策が目指す「食料・食品産業拠点・ニューフードバレー」、「防災・救援首都」の取組みの方向性について異存なし。	98	-		
施策23	1	ニューフードバレーを進めるうえで、農地基盤の整備が重要である。	101	①	本市はこれまでも大農業都市として、農業経営の規模拡大や法人化等に取り組む農業者に対して、農機具の購入支援など「力強い農業を支える基盤の強化」を推進してきました。既存農業の経営基盤強化は、ニューフードバレーを形成・推進する上で不可欠であることから、施策23「ニューフードバレーの推進」の中に新たにクロボツを設け追加記載します。	
	2	農業について、効率化、大規模化を図れば、素案表記の農業就業人口の減少はさらに進み、農村の活力が極端に落ちることが想定されるため、過去の検証を行い、その対策の文言を表記してはどうか。		①		
	3	ニューフードバレーについて、農業の大規模化、企業の参入を進めると、中小の意欲のある農家の人たちが先細りすると想定されるため、その対策を計画内に文言として含めてはどうか。		①		
	4	農業就業人口減少対策として、農業機械や建物のコストが非常にかかることから、若い担い手への金銭的な支援強化をしてはどうか。		①		
	5	世界の農業・食品産業の拠点となるため、ジェトロのような機能・機構を持つ、力量を蓄えるなどの記載を入れてはどうか。		②		これまで、農産物の輸出支援、海外への販路拡大を目指す食品メーカーに対し、商談等の機会を提供するなど世界に開かれた食の拠点化を推進してきました。輸出促進については、ニューフードバレーを形成するうえで、重要と考えており、具体的な手段・手法については実施計画・分野別計画の中で検討することとし、その際は日本貿易振興機構(ジェトロ)の持っている知識やノウハウを参考にします。
	6	農業就業人口の高齢化、農地の荒廃を抑えるため、飼料米のサイクルを政策的にシステム誘導していく、というような記載を入れてはどうか。		②		これまで、飼料米の生産に取り組む農業者を支援するなど多様な米づくりを推進してきました。具体的な手段・手法については実施計画・分野別計画の中で検討します。
	7	農業の発展のため、グリーンツーリズムをどのように位置づけるか。グリーンツーリズムの徹底的な振興、というような記載を入れてはどうか。また、一般の方に食への興味を持ってもらうため、グリーンツーリズムについては、誰もが活用しやすく行きやすい状態にしてはどうか。		②		食と農の学校による農業体験、つくる・育てるなどの本格的な教育ファームと農業の担い手育成の場として開設したアグリパークをなど、これまで進めてきた「食と花の新潟」を支える基盤づくりを未来へ繋げるため、施策29「食と花の魅力の向上」を掲げました。グリーンツーリズムについては、上記施策に含まれており、具体的な手段・手法については実施計画・分野別計画の中で検討します。
	8	施策23「ニューフードバレーの推進」記載の「新しい技術を活用した次世代型、革新的な農業を推進します。」について、経済的に豊かな農家が増えるように、米づくりだけでなく、他の分野に波及するような政策を作り、内容もしくは方向づけしてはどうか。		②		革新的な農業については、ニューフードバレーの中に盛り込んでいます。農業の多角化、革新的な農業による経営基盤の強化は、重要と考えており、具体的な方策については実施計画・分野別計画の中で検討します。
	9	施策23「ニューフードバレーの推進」の表記について、「革新的農業を推進します」を「確立します」のようなきちんとした言葉にしてはどうか。		②		革新的な農業は、8年後で完了するものではなく、その後も進めていくことから、「確立」ではなく「推進」のままとします。
	10	施策23「ニューフードバレーの推進」について、市民(農業者、企業の皆さま)が計画をよりスムーズに実行できるように、民間活用について、ある程度文面化したほうが良いのではないか。また、一般企業の方と農家の方々のコラボレーションを活発にしていく施策が必要ではないか。		②		ニューフードバレーの推進における市民(農業者、企業の皆さま)の関わり方・連携については、施策23「ニューフードバレーの推進」の2つ目のクロボツで農商工連携について、3つ目のクロボツで産学官連携について記載しています。具体的な関わり方・コラボレーションを活発化していく手段・手法については、実施計画・分野別計画の中で実施主体を示すなど市民の皆さまがイメージできるよう対応します。
施策24	1	施策24「環日本海ゲートウェイ機能の強化」の表記について、「道路網」を「新潟中央環状道路などの道路網」とすることで、よりわかりやすくなるのではないか。	101	①	「拠点を結ぶ道路網」とは、本市が北東アジアや東南アジアと東日本との多様な交流の結節点として機能できるよう、首都圏をはじめとした県外の都市を結ぶ道路をメインとして市内の空港・港・拠点を結ぶ幹線道路も含むことから、わかりやすく表現するため「首都圏をはじめとした各都市とを結ぶ道路網や市内の拠点を結ぶ道路網」など記載について検討します。	
	2	施策24「環日本海ゲートウェイ機能の強化」記載の「向上させます」という表現について、どのように向上させるかわかりにくいいため、施策を具体的な表現にしてはどうか。また、もう少し強い表現にしてはどうか。		②	具体的な産業振興策については、実施計画・分野別計画の中で表します。	
施策25	1	施策25「日本海側への機能移転の推進」について、日本海国土軸の形成の概念に、空港や港が含まれていないことから、港や空港を追記してはどうか。	102	①	施策25「日本海側への機能移転の推進」の本文に「空港、港」・「機能移転の内容」について追記します。「強靱な日本海国土軸を形成するため、港や空港を活かし、鉄道や道路のネットワークの拠点性強化とともに〜」、「本市の立地・特性を活かし産業など機能移転を推進します。」	